

山梨県 桃の会

会報 第 106 号

「生きるため」私たちは生まれた

人の誕生は一人の光り輝く存在として始まる
その存在は周りに無常の喜びをもたらし希望を与えた
その時はただ存在するだけでよかった
「ただの存在」から「期待される存在」へ移行していくと
期待が強いほど自ら放つ光りは徐々に弱まり
本来の生きようとする力が摘みとられていく



自身で「生きよう」とする力は
本来みんな平等にもって生まれたはずだから
その力を存分に使うためには
個々の持つ魂の光を絶やす訳にはいかないのだ
その魂の光を守り育てるためには多くの
更により多くの人の力が必要だと感じる

出会う、つながる、わかちあう

K H J 全国ひきこもり家族会連合会 山梨支部

HP <https://momonokai.org> e-mail meri-sannokuni@softbank.ne.jp

[それは当然の結果ではなかったのか？]

6月18日にぴゅあ総合で開かれた講演「ひきこもり支援 この十年」で講師の前島文彦氏(山梨日日新聞社社会部長)も述べておられた通り、2016年と2019年に内閣府が行なった“ひきこもり実態調査”の結果に基づく推計によると、15歳から64歳までの所謂「生産年齢人口」中の“ひきこもり人口”は約146万人になると言う。これは大変に大きな数字のように見えるが、私からすれば、まだまだ少ないようにも思う。個人的には1460万人ぐらいいても不思議ではないと思っている。この国の戦後の高度経済成長期からバブル経済崩壊後までの学校教育と家庭教育の一端に触れ又その病理性を探究してきた者からすると、近年の“不登校”や“ひきこもり”の増加は起こるべくして起こった事態と思わざるを得ない

教育が一人一人の子供の発達を保障する教育になっていなかったのだ。私たちが当たり前のように思っている現代日本の学校教育は、実は、幼児教育から高等教育まで、人間の発達に関する科学的な知見の上に作られた制度でもなければ、何らかの社会的な合理性を追求した結果でもない。あくまでも個人的な経済的合理性を個々人が追求し続けた結果に他ならない。受験競争の過熱も大学の乱立もその過程で生じた現象だ。一方、家庭教育は家庭教育で、そんな学校教育の下請けのような役割を果たして来た。これは何も戦後に始まった話ではない。身分制社会に風穴を開けた明治維新以来の日本の伝統なのだ。これといった資産も持たず父祖伝来の誇りある家業もない多くの庶民にとって、自分の子供たちを社会階層的に上昇させる(あるいは下降させない)ためには、学校教育以外に頼るべき物はなかったからだ。戦後の高度経済成長はその流れに棹さしたに過ぎない。“ひきこもり”問題の先覚者の一人で精神科医の斎藤環氏は「(事例の)多くは現代日本の中流以上の階層が占めて」と指摘するが(斎藤環『改訂版 社会的ひきこもり』p.72)、この家族的背景の特徴も、学校教育の件の歴史的な経緯を考えると非常に良く理解できる。

お陰で、人生において特に青少年期において最も切実な問題つまり「いかに生きるべきか」という問題が家庭教育においても学校教育においてもすっかり等閑(なおざり)にされて来たように思う。目下“ひきこもり”状態にある人たちの多くは、その問いを遅ればせながら自らに投げ掛けている人たちのように私には思えてならない。

(萩原)



「ひきこもり支援、この 10 年」 第 1 回 桃の会 10 周年記念講演

山梨日日新聞社の前島文彦氏に「ひきこもり支援 この 10 年」というテーマでご講演頂きました。

ひきこもり数の変化や年齢別の比較、ひきこもるきっかけとなるデータ、当時取材された事例、ひきこもることへの社会の反響、などスクリーンを利用してのお話しはとても分かり易く興味深いものでした。

参加者の様々な質問へも丁寧にお答えくださり、色々な視点からのお話しが伺えました

■設立のきっかけ

10 年前山梨日日新聞の働きかけでひきこもり家族会が山梨に設立されるきっかけとなりました。働きかけのきっかけは、あるひきこもり家族の訴えがあり KHJ 全国ひきこもり家族会連合会との話し合いで山梨での集まりが実現したそうです。その人の訴えに行動へと向かわれた力が私たちを「ひきこもる」という現実に向き合うことになったと言えるでしょう。

「扉の向こうに」という新聞の連載は一年にわたり、今まで埋もれて見過ごされていた「ひきこもる」という社会現象が一挙に吹き出したように思われました。そして県内でひきこもりの問題は段々周知されるようになり、まもなくひきこもり相談支援センターも設けられました。

■当時の「ひきこもり」への反響

「ひきこもれるのは経済的余裕があるからだ。自分はひきこもりたくてもひきこもれない」といった内容の日日新聞の街頭インタビューの記事を再度見せて頂きました。家族や当事者への共感より「怠けている」「甘えだ」という批判的考え方が主流であったように感じています。

10 年経過してもその考え方は根強く残っていて「理解の壁」に立ちはだかっていると感じます。

■行政に求めるもの

本当に必要な支援に繋がっているのか、まだまだ支援方法はあるのではないかと前島さんは話されました

- ・ 6 カ月以上をひきこもりとみなす定義の見直しが、早期支援に繋がるために必要ではないか
- ひきこもる形も色々あり部屋や家から出れない人だけがひきこもりではない。
- ・ ひきこもり支援法(法律)の必要性、どの部署で受け持つか明確にするために。
- ・ 両親の高齢化により兄弟姉妹としてどのように関わっていけばよいか話せる場が必要である
- ・ 既成の支援ではなくそのケースに合わせた支援、これからのことを考えた支援が必要ではないか

10 年の時を経てもひきこもることへの理解は中々進みにくいと感じます。彼らに寄り添うということは洋服のオーダーメイドと同じくその人のサイズに合わせた支援をと前島さんはお話しくださいました。

それは当然、一人一人みんな違った支援方法になるということです。

更に 10 年経過してオーダーメイド支援に少しでも近付いていて欲しい・・・

しかし何よりひきこもるという社会現象が少しでも減少する事を願います。

当事者 Voice



当事者スペースの報告 6月18日(日) 13時～15時 ぴゅあ総合2F小研修室2

参加者：当事者・経験者(6名) 初参加者(1名) 桃の会関係者(1名)

*スペースにおける内容

今回もぴゅあ総合2階の小研修室を会場に当事者スペースを開催しました。部屋は広くはないですが、大きな窓があるために外の景色も見えて、圧迫感などは感じない部屋だと思います。スペースでは、「最近聴いた音楽はありますか？」とのテーマで、皆さんが音楽・歌について語りました。また、ご自分の近況についても話しをしてくれる方もおりました。取り組まれていることや、お出掛けされてきたこと等。「スタジオジブリのアニメ映画について思い出や思いはありますか？」との話しでは、見た作品を教えられたり、作品についてのエピソードなどを話してくれました。鋭い視点でアニメーションの問題の指摘も出されました。7月にテーマトークの活動として荏崎ニコリでお菓子作りを予定しており、お知らせもありました。東京など首都圏、また県外のひきこもり等の方々の居場所・集いについての話しもしました。実際に参加された感想などを伺えました。

*世話人たちの感想(今回は1名)

今回、午前中に開催された家族会における、山日新聞の前島さんの講演会にも参加して聴くことができました。講演の中では、当事者の居場所についても話しが生まれて、私も勉強になりました。ひきこもり等の苦労・しんどさの話だけではなく、自分の味のあること、好きなこと、自分とはこういう人間であるということをお話せる居場所も必要ではないかとのこと。ひきこもりの誰々ということではなく、参加できる居場所とのこと。本日の当事者スペースでも、皆さん様々話しをして下さいました。 報告 米長

.....*****



テーマトーク報告書 6月10日(土) 福祉プラザロビー

◎テーマ『フリーテーマ』

◎参加人数：5名(当事者4名 親1名)

いつもお世話になっております。スタッフのたきざわです。今回のテーマトークでは、自由にトークし合うということもあり、色々な意見を出して頂けたかなと思います。ただ、全体的に、多くの参加者が少し元気がなかったかな?…という印象でした。急な気温上昇などの影響もあるのかもしれませんが。

これからも会を重ねながら、少しずつ気持ちを吐き出せる場になれば良いですね。

次回テーマトークは参加者の皆さんとお菓子作りをしたいと思います!当日は調理アドバイザーとして、桃の会スタッフの岩下さんが参加いたしますので、安心して作業に取り組めます。詳しくは裏面で!

** 7月の活動日程

▶ **当事者スペース** 7月16日(日) 13時～15時 ぴゅあ総合小研修室1 参加費無料

フリートーク・・・日々の出来事や感じたこと、様々な想いを自由に話します。

▶ **テーマトーク** 7月8日(土) 11時～15時 荏崎ニコリ 参加費 ¥300

『お菓子作り』当事者交流会 お申込み不要です

「お菓子作り」当事者交流会（2023.7.8）

目 的： 会の当事者や親の会員と一緒に、同じ作業を行うことを通して、新たな交流の機会を設けることを目的とする。

日 時： 2023 年 7 月 8 日（土曜日） 10 時 50 分集合 11 時開始～15 時終了

場 所： 韮崎市民交流センターニコリ（<http://www.nirasaki-nicori.jp/>）調理実習室

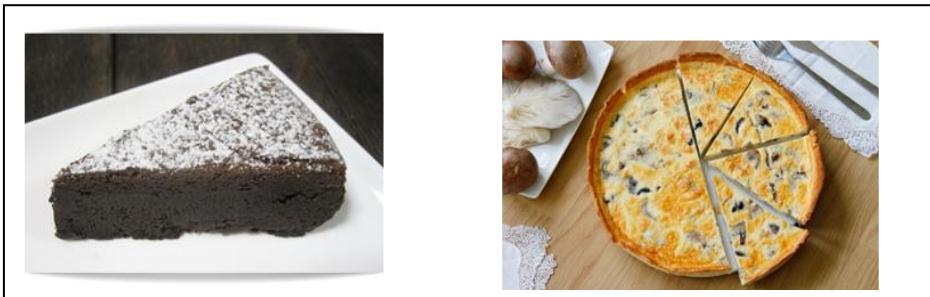
会 費： 300 円（材料費負担分）

人 数： 最大 16 人まで可能

持ち物： エプロン、三角巾（帽子）など 無くても良い

調理内容： 所要時間 1 時間半 ガトーショコラ、キッシュを作る（どちらかを選ぶ）

* ガトーショコラは、チョコレートの焼き菓子（パウンドケーキの型を使う）



* キッシュは、タルト型で甘くない型を焼き、ほうれん草とベーコンを卵液に混ぜてチーズをのせてさらに焼いたもの

試食・話し合い：所要時間 1 時間半程度 かたづけ 解散

ニコリ地図

The map shows the location of the Nicori facility (韮崎市民交流センター NICORI ニコリ) relative to the JR Chūō Line (JR中央線) and Nirasaki Station (韮崎駅). It includes a parking lot (駐車場) and a rotary (ロータリー). The map also shows nearby landmarks such as the Nirasaki City Fire Station (韮崎市消防署), Nirasaki JR Station (韮崎駅), and various shops like Lawson (ローソン) and FamilyMart (ファミリーマート). The map is labeled with the address 〒407-0015 山梨県韮崎市若宮 1丁目 2-50.

■ 立体駐車場：
1F～4F 駐車台数284台
2F・4Fに身障者用有

※4時間まで無料、4時間以降30分増すごとに100円
(1日最大1,000円、最長7日間まで駐車可)

※センター休館日は及び22:30～翌朝6:30までの入出庫はできません。

※センターの休館日は、毎月第3月曜日（祝日の場合は翌日）および年末年始（12月29日～1月3日）

※出庫時の精算機は、二千円札・五千円札・一万円札紙幣および5円・1円硬貨が使用できません。

■ お車ご利用の場合：
・ 中央自動車道・韮崎IC下車10分

■ 電車ご利用の場合：
・ JR中央本線韮崎駅下車徒歩1分

【連絡先】

滝沢悠弥 yt525momocafe@gmail.com

岩下和彦（調理アドバイザー）

090-4618-6985

* 参加の申し込みは不要です！

今回のテーマは「コミュニケーションについて」です。皆様のご参加をお待ちしております。

TEL&FAX 0266-78-3742 篠原 / Tel 0551- 47- 4040 080-9400-4187 井口